

# グリーン四国

No.1264  
2025年  
7月号

## 四国森林管理局長就任あいさつ

【詳細は2頁】



### 目次

- ・ 四国森林管理局長就任あいさつ ..... 2
- ・ 令和7年度第3回国有林モニター現地説明会を開催 ..... 3
- ・ 香美市役所と高部中部森林管理署連携強化の取り組み ..... 4
- ・ 三嶺登山パトロール ..... 5
- ・ 「梶原町太郎川森林フェスティバル」の開催 ..... 6
- ・ 刃物を「使う」から「安全に使いこなす」ために ..... 7
- ・ 西土佐の魅力探求の旅 ..... 8
- ・ 現場からの便り 大規模地すべり地帯での民有林直轄地すべり防止事業 ..... 9



四国山の日

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

T E L 088-821-2052  
H P <https://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>  
E-mail [shikoku\\_soumu@maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@maff.go.jp)

# 四国森林管理局長就任あいさつ

四国森林管理局長 田中 晋太郎



7月1日付けで四国森林管理局長を拝命しました田中です。よろしくお願いいたします。

四国での勤務は、初めてとなります。異動前は中国四国農政局（岡山県岡山市）で次長として中国5県・四国4県の農業振興等を担当しており、仕事やプライベートで、四国

を訪れる機会がありました。四国は、森林・自然が豊かで、また、城・城下町等の歴史・文化が興味深く、食文化が多様だと感じています。

四国の地で国有林野事業を担当させていただくこととなり、身の引き締まる思いであり、また、大変ありがたいと考えております。できるだけ現場に足を運び、地元の皆様の御意見を伺いながら、四国森林管理局の業務の推進に取り組み、四国の森林・林業・木材産業を盛り上げ、地域の活性化に貢献したいと考えております。

さて、四国森林管理局が管理する国有林は、約19万haで、四国全体の面積の約1割に相当する面積（香川県とほぼ同じ面積）となっております。四国森林管理局といたしましては、国有林野の公益重視の管理経営を一層推進するとともに、「新しい林業」の実現に

向けた取組や、地域への貢献に向けた取組を推進することとしております。職員一丸となつて業務に取り組んでまいりますので、御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



# 令和7年度 第3回国有林モニター現地説明会を開催

〈局 企画調整課〉

林野庁では、幅広い国民の皆様にも国有林についての理解を深めていただくとともに、意見交換など対話型の取組を通じてご意見やご要望をいただき、それらを国有林の管理経営に役立てることに、より開かれた「国民の森林（もり）」にふさわしい管理経営を行っていくことを目的として、「国有林モニター制度」を設けています。



座学の様子

四国森林管理局では現在、令和6～7年度の2年間で任期とする国有林モニターを34名の方に依頼しています。

6月7日、高知県香美市において、第3回国有林モニター現地説明会を開催し、四国各地から参加いただいた13名の国有林モニターの皆様にも木材の生産事業についてご説明するとともに現地をご覧いただきました。

1. 木材の生産事業についての座学

はじめに、高知中部森林管理署において、企画調整課より国有林における木材生産事業についての座学を行いました。

ここでは、国内の人工林資源が利用期を迎えていることや間伐の必要性、木材の搬出方法、国有林における施業の制限などについて説明しました。

2. 木材の生産現場の見学

次に、高知県香美市の猪野々山国有林9林班において、列状間伐の現場を見学しました。

当該現場は集材機（架線）による集材を実施しており、大きな木がワイヤーで吊り上げられて移動する様子を見た参加者からは驚きの声が上がりました。「架線集材は初めて見たが面白い。」といった感想のほか、「どのくらいの重さを吊り上げることができるのか」、「架線の技術はどのくらいの期間で習得できるのか」、「集材機の動力は。」など多くの質問がありました。これらの質問については、署の職員だけでなく、同席いただいた当該現場の請負事業者からも発言いただき、「2t程度まで吊り上げ可能だが、安全を考慮し、作業は1t（3～5本）で実施している。」、「10年～15年。架線を張る作業は毎日するわけではなく、山の地形に合わせて毎回設備内容も違う。」、「ディーゼルエンジンで軽油を使用している。」など回答があり、活発な質疑が行われました。



架線集材の見学

また、プロセッサ（高性能林業機械）による造材の様子も見学いただき、参加者からは「機械が進んでいて驚いた。」、「木材が規定の長さに切断されている様子が面白かった。」といった感想がありました。

3. まとめ  
 現地説明会全体を通して、「架線集材はなかなか見られないため、貴重な経験となった。」「素材生産事業についてよくわかった。」「(局・署からの説明だけでなく) 現地で林業に従事している方からの説明も聞いたことが有意義だった。」といった感想をいただきました。

引き続き、モニターの皆様からいただいたご意見等を踏まえ、国有林の適切な管理経営を行い、多くの国民の皆様が国有林野事業への理解を深めていただけるよう努めてまいります。



プロセッサによる造材の様子の見学



集合写真

## 香美市役所と 高知中部森林管理署 連携強化の取り組み

〈高知中部森林管理署〉

5月15日、香美市役所において、香美市と高知中部森林管理署の連携強化の取り組みを実施しました。

今回の連携強化の取り組みには、香美市役所から5名、当署から5名の計10名が参加しました。

初めに当署の森下森林技術指導官より「高知中部森林管理署の森づくりの課題」について説明があり、シカやウサギといった野生鳥獣による被害が増加傾向にある現状について、効果的な対策方法等の情報交換を行いました。また、シカ被害を受けて下層植生がなくなってしまう箇所、地表の保護について、カヤ・タケニグサ等シカが食べない植物を植えることで地表を守れるのではないかとといった意見や、近年被害が増加しているノウサギの捕獲方法の検討等様々な意見交換を行いました。

意見交換後は両職員2班に分かれ、森林環境教育教材の一つである「ZORING」を用いて

造林事業の流れについて学びました。

「ZORING」とは東北森林管理局三陸中部森林管理署が作製した小・中学生向けの教材で、対戦型のカードゲームとなっており、造林事業や森林被害を遊びながら学ぶことができます。

参加者からは、「山づくりの流れが簡単に学べて大人も子供も楽しめる」、「一つの山を育てるにもただで大変かが分かった」、「シカや病虫害といった妨害要素もあり思わず夢中になった。」等のご意見がありました。

今後は、香美市役所と定期的な情報交換を行うことで、さらなる連携強化を図っていくとともに香美市の森を守り、育てる活動を進めていきたいと思っております。



# 三嶺登山。パトロール

〔高知中部森林管理署〕

高知中部森林管理署管内の最高峰であり、象徴的存在である三嶺。高知県では「さんれい」徳島県では「みうね」と呼ばれ山岳愛好家や地域の人々からも愛されている山です。

6月5日、梅雨入り前の夕イミングで、登山道や山頂にある境界標の確認、そして二ホンジカの食害を自分の目で確認することなどを目的に、若手からベテランまで当署職員9名で三嶺に登り巡視を行いました。

三嶺はどのコースをたどっても片道3時間という長丁場ですが、今回は最短ルートの白髪避難小屋経由をとりました。いきなりの急登ですがブナの新緑の中、徳島県境の尾根にたどり着くと正面にどっしりとした三嶺が見え始めます。カッコウの鳴き声が心地よく響き、ツルギミツバツツジが点々と濃紫の彩りを添えてくれるのも目に楽しく、白髪分岐より生越りカヤハゲとアップダウンを繰り返しながら進みました。

登山道周辺では、二ホンジカ食害により樹皮をかじられ枯れてしまった痛々しい木々や、スズタケやササが衰退し下層植生が消失して表土が流れている現状、幾本ものモミの大木が倒れ小崩壊が至る所に発生している状況などを目の当たりにしました。

三嶺が美しかった昔の姿を知るベテランの職員からは「こんなに傷んではいなかったがひどいものだ」という声も聞かれ、二ホンジカの食害が深刻になれば手の施しようがないほどのダメージが及ぶことを改めて認識しました。

今回初めて登る若手職員にとっては今の姿が原風景となりますが、これ以上、食害の被害が広がらないように頭数調整を重ね、ボランティア等の協力も得ながらコツコツと守っていくしかないのだと思われます。

長い道のりでしたが、最後の急登にあえぎながらほぼ予定通り山頂に到達しました。

1864mの山頂からは剣山や次郎笈をはじめ、360度の展望が広がりが四国の主だった山並みを眺めることができました。名頃登山ルートや剣山から縦走してきたという登山者も次々と登ってこられ「四国でもっとも

美しい山」といわれる三嶺を楽しんでおられました。

山頂で昼食休憩のあと、境界巡検作業を終え全員無事に帰署することができました。

折しも、NHK連続テレビ小説「あんぱん」では香美市が舞台となっており全国的にも注目を集めているところです。

香美市出身のやなせたかし先生が、香美市のためにデザインした「さんれいさんちゃん」と、西熊山にある森の巨人百選の巨木をモデルにした「森のモリくん」も香美市の森林のPRに活躍しています。

「あんぱん」の波及効果により、これから夏山シーズンを迎え多くの登山者が三嶺を目指すことと思われますが、無理のない計画での安全な登山の呼びかけとともに、美しい三嶺を守るため様々な対策に取り組んで行きたいと思いません。

香美市イメージキャラクター

森の

モリくん



© やなせたかし

さんれい

さんちゃん



© やなせたかし



# 「梶原町太郎川森林フェスティバル」の開催

〈四万十森林管理署〉

5月25日、梶原令和の森林づくり協議会ReMoRiが主催する森林フェスティバルが太郎川森林公園にて開催されました。このイベントは「もう一度、一緒に森林にはいろう」をテーマに林業従事者をはじめとして、広く一般の方に林業の魅力を発信し、森林のよさに気付いてもらうことを目的としています。

当日のアクティビティは、町内外からの出展が多数あり、森林キッズに変身（コスプレ）、木のおもちゃワークシヨップ&お箸作り体験、ヒノキのハンバーガーストラップ作り、なんでもメーターのワークシヨップ、チェーンソーVR体験、手作りキーホルダーづくりなど多種多様なものでした。ステージでは、津野山神楽、座つてできるヨガ、シンガーソングライター及び高校生バンドのライブなどのイベントもあり、こちらも大盛況でした。

また、今年のスペシャルゲストとしてチェーンソーアート世界チャンピオンの「城所ケイジ」さんが参加され、チェーン

ソーで丸太を一気に削り上げる世界レベルのパフォーマンスを披露されました。

四万十森林管理署は今年度で4回目の参加となり、若手職員を中心に8名が参加して、「木製キーホルダー作り」を出展しました。あらかじめキャラクターを描いた木製の板に、訪れた子供たちがカラーマジックペンで思い思いに色を塗り、その後自分で選んだストラップを付けて完成となるものです。

当署のブースも多数の子供連れの家族などが訪れ、キャラクターが描かれた木板に皆、真剣な表情でペイントしオリジナルの木製キーホルダーを作成しており、完成後にはお礼の声をもらうなど、職員の今までの準備の数々も報われた一時でした。

これからもこのようなフェスティバルに積極的に参加し、森林のすばらしさについて実感してもらえよう職員が一丸となって、取り組んでいきたいと考えています。



作成の様子



チェーンソーアート



完成品



四万十森林管理署ブース

# 刃物を「使う」から「安全に使いこなす」ために 刃物の取扱い講習を受講し

（安芸森林管理署）

安芸森林管理署では、毎年度若手職員を対象に刃物の取扱いに関する研修を実施しており、今年度も6月10日に、刃物の研ぎ方及び危険性について新規採用職員を中心とした若手職員3名に対して講習を行いました。

本講習は、国家公務員安全週間の事前取組の一環として、当署の技術系職員による刃物の研ぎ方や使用時の注意事項について実践を交えた講義となっていました。

まず初めに、鉈ノコギリの研ぎ方について講義を受けました。研ぐ際の事前準備として、砥石を30分以上水に浸け、十分に湿らせてから使用するようにとの指示がありました。また、我々林野庁職員が用いる鉈を研ぐ際は、3種類の目の粗さの砥石を使用することが一般的であり、刃に入った傷の状態に依じて使い分けていくことを学びました。砥石の摩耗具合に偏りが生じないように研ぎ面を大きく使い、砥石に対して一定の角度で刃を当てる

ことで、切れ味抜群の鉈が仕上がりました。

次に、若手職員達は、森林事務所敷地内に生えた灌木を用い、鉈及び鋸の使い方の方の講義を受けました。鉈については、利き手によって刃の形が異なることを確認したうえで、使用する際の注意点を確認しました。鉈は刃の食い込む角度によって、枝や幹に弾かれて手元が狂う可能性があります。そのため、刃の入る角度は対象物に対してなるべく浅くし（45度以下の角度）、対象物に弾かれた場合に刃が自分に向かつてこないよう、体の外側から内側へ刃を入れるようにしています。また、対象物を伐った後に刃が自分の足に踏み出して対象物に刃を入れるようにします。前述した通りに刃を入れることができれば、力を入れずに伐れるはずですが、練習当初はうまくいかず悪戦苦闘しました。しかし、コツを掴んでからは鉈本来の切れ味を發揮し、スムーズに伐つていくことができました。

鋸についても、鉈と同様に敷地内に生えた灌木を用い、使用方法及び使用時の注意点について講義を受けました。鋸は鉈と異なり、対象物（幹）に対してほぼ垂直に刃を入れていく必要があります。これは、なるべく切断面を小さくして伐採にかかる労力を減らすためです。鉈のように枝や幹に弾かれることや、足を切るリスクは小さいものの、刃が折れてしまう恐れもあるため、真つすぐ刃を入れることが重要になります。使用時の注意点は刃物の種類によって異なるものの、注意点を踏まえて慎重に扱うことの重要性を学びました。

本講習で学んだ注意点を忘れず、刃物を慎重に取り扱うよう心掛けていくなど、日頃から刃物の取扱いを含め安全への意識を忘れずに、労働災害の未然防止に努めたいと考えています。



鉈を研ぐ様子

## 西土佐の魅力探究の旅 中学生「堂ヶ森」登山

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

### ○概要

四万十市立西土佐中学校では、令和3年度から、「地域の自然や文化、歴史に興味関心を持ったための学習」を行っています。

この一環として、6月19日、1年生9名が「堂ヶ森」に登山することになり、当センターも同行して森林環境教育を行いました。

### ○「堂ヶ森」登山

当日は天候に恵まれ、開会の挨拶の後、往路は、登山口（標高639m）からネイチャーゲームの「ワールドビンゴ」（からだの五感を使って自然の宝物を探すビンゴゲーム）をしながら登りました。また、ヒノキやユズリハ、アカマツ、ハイノキなどの樹木、リスがかじった松ぼっくりのエビフライ？ イスノキの虫こぶなどの学習も行いました。

遠くに見える鬼ヶ城山系の山脈や西土佐で一番高い山「横の森」（標高1,200m）を眺めつつ、標高が増すに連れてアカガシ、ヤブツバキ等の照葉樹林（常緑広葉樹）、モミ、ツガ等の針葉樹林、イヌシデ、ウリハダカエデ等の落葉広葉樹林と移り変わる四万十川

流域の貴重な天然林の様子をつぶさに観察しつつ、木々の緑や鳥のさえずりを聴き、豊かな郷土の自然を楽しみながら約1時間30分で堂ヶ森山頂（標高857m）に到着しました。

山頂では「堂ヶ森の由来」や「女相撲」などの伝統行事の説明を聞き、山頂の堂ヶ森風景林のアカガシの太木や樹齢約500年とも言われるヤブツバキを見ました。

### ○「四万十の桧仙人」

復路は、木々の緑のシャワーを浴びながらアカシヨウビンの「ヒュルルル〜♪」との鳴き声も楽しみ、旧保護林で四万十市との多様な活動の森「西土佐藤の川ヒノキ仙人の森」として協定している、胸高直径1m以上の天然ヒノキの群生地の中にもひと際目立つ、林野庁の「森の巨人たち百選」※に選ばれた「四万十の桧仙人」に到着しました。

江戸時代から約300年という時を経て現存する天然ヒノキ群生地の雄大さや、「四万十の桧仙人」を目の当たりにした生徒達は、「木がでかい！」と凄く驚き、全員が「四万十の桧仙人」にタッチして大木のパワーを感じました。

ちなみに、四万十市西土佐地

域のヒノキは「幡多ヒノキ」のブランドでも知られ、製材すると綺麗な木目がでるのが特徴です。

そして、天然ヒノキの群生地の中の登山道を下り、「旧西土佐郷土の森」の駐車場まで約一時間で下山し、駐車場の広場で昼食をとった後、「西土佐山と川の物語」と題して、西土佐の見飽きることのない自然の美しさや豊かさ、歴史について説明し、生徒からのいろいろな質問に当センター職員が応えました。また、生徒は、この後で、駐車場付近のゴミ拾いをしてくれました。

その後、バスで帰る途中に、杖ヶ尾林道沿いの森林軌道の遺構を見学しました。

### ○おわりに

生徒の代表から、「山のこと、自然のこと、木のことなど、今回の登山を通して新しい発見があつて、とても良い経験になりました。ありがとうございました。」とお礼の挨拶があり、無事に登山を終了することができました。

当センターとしても学校の要請に応えることができ良い一日でした。

※「森の巨人たち百選」林野庁では、次世代への財産として健全な形で残していくべき巨樹・巨木を中心とした森林生態系に着目し、代表的な巨樹・巨木を「森の巨人たち百選」として選定しています。



「四万十の桧仙人」にタッチ



木々の緑のシャワーを浴びながら堂ヶ森登山の様子



堂ヶ森山頂で集合写真



堂ヶ森と天然ヒノキの群生地（白線で囲んだ箇所）

現場からの便り

# 大規模地すべり地帯での民有林直轄地すべり防止事業



徳島森林管理署  
 祖谷川第二治山事業所 治山技術官 川口 慎弥  
 祖谷川第一治山事業所 係員 林田 健太郎

現場からの便り  
 私たちが勤務している祖谷川第一・第二治山事業所は、吉野川水系の祖谷川上流域に位置する徳島県三好市東祖谷（旧東祖谷山村）に位置し、徳島市及び高知市からそれぞれ車で約2時間半の場所にあります。

当事業所は、第一と第二の合同事務所となっており、吉野川支流の祖谷川を挟んで東西に管轄が分かれていますが、現在は治山技術官1名および係員1名の計2名で管内の治山事業に携わっております。  
 祖谷川地区の管内は、地理的特徴として破砕帯特有の脆弱な地質構造を有しており、これを要因としてこれまで大規模な地すべりや崩壊が発生してきました。特に、昭和29年の台風12号による集中豪雨により、東祖谷地区全域で多数の大規模な地すべり性崩壊が発生しました。こうした被災地の復旧及び地すべり対策を実施するため、徳島県からの要請を受け、昭和39年

度より国による「直轄地すべり防止事業」に着手しました。  
 近年では、祖谷川第一治山事業所では西山地区、祖谷川第二治山事業所では樫尾地区を主として事業を進めているところで

す。  
 樫尾地区では、昭和60年頃から家屋や道路等に亀裂が生じるなど、活発な地すべり活動が確認されました。これを受け、地すべりの誘因である地下水を排除することを目的として、集水井工77基（最大深59メートル）並びに排水トンネル工4本（全長2,045メートル）を施工してきました。現在は、それらの機能を維持するため、それぞれの内部から集水・排水ボーリング工の追加施工や洗浄工を実施しています。  
 一方西山地区では、平成23年9月の台風12号の影響により、地すべり地内の亀裂の拡大や斜面表層の崩れが多発し、その後

的に確認されていることを受け、平成27年度より新たに直轄区域に追加して事業に着手してきました。下流域への土砂の流出を防ぐため、これまでに谷止工を設置したほか、今年度は崩壊地の拡大浸食を防止するための床



樫尾地区 排水トンネル洗浄工の確認



西山地区の地すべり地帯



集水井工（H10年度施工 樫尾地区）

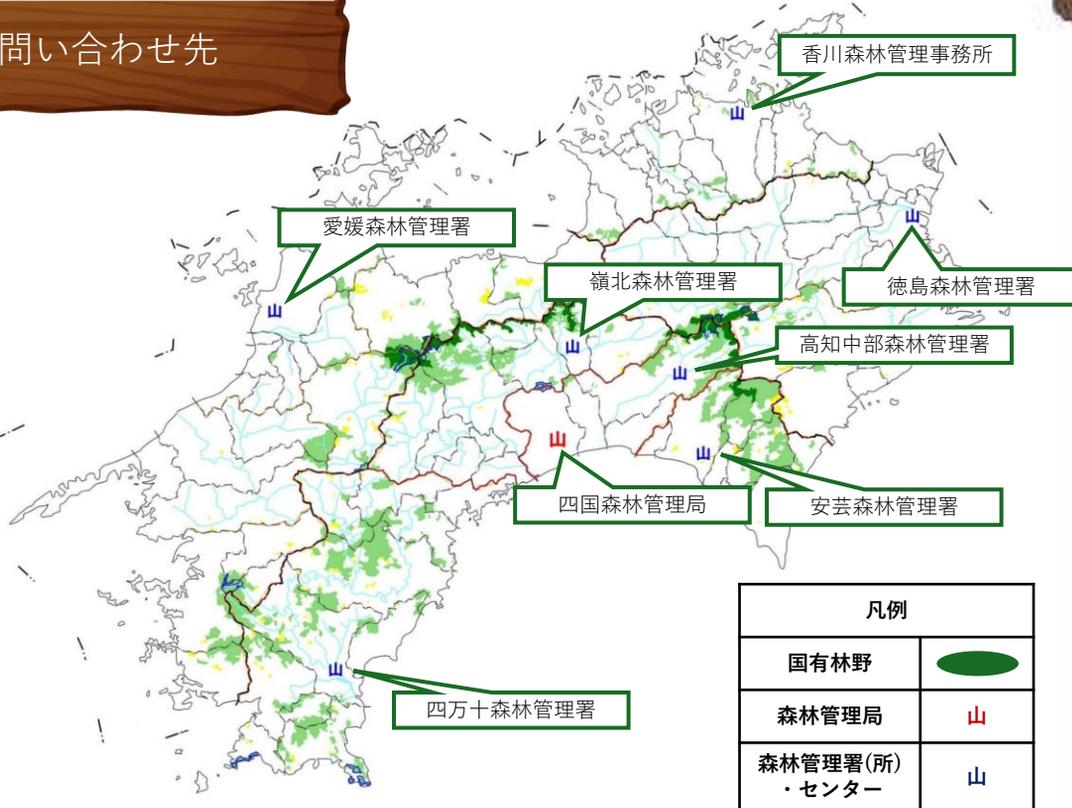


排水トンネル工（H12年度施工 樫尾地区）

固工及び流路工の施工を予定しているところ。また、西山地区の地すべり地帯は、樫尾地区と同様に規模が大きく、地下水も豊富であることから、今後排水トンネル工を施工し、地すべり活動の鎮静化を図る計画としています。  
 近年は、大雨や短時間強雨の発生頻度が増加傾向にあり、国土保全の重要性がますます高まっている中で、地元住民の皆様の理解を得ながら地域の皆様の安心・安全の確保のため、今後も着実に地すべり防止事業の推進に取り組んでまいります。

四国森林管理局・署（所）

お問い合わせ先



四国森林管理局・署（所）問い合わせ先

名称	住所	TEL
四国森林管理局	高知県高知市丸ノ内1-3-30	088-821-2210
徳島森林管理署	徳島県徳島市川内町鶴島239-1	088-637-1230
愛媛森林管理署	愛媛県松山市朝美2-6-32	089-924-0550
四万十森林管理署	高知県四万十市中村丸の内1707-34	0880-34-3155
嶺北森林管理署	高知県長岡郡本山町本山850	0887-76-2110
高知中部森林管理署	高知県香美市物部町大栃1539	0887-58-3131
安芸森林管理署	高知県安芸市川北乙1773-6	0887-34-3145
香川森林管理事務所	香川県高松市上之町2-8-26	087-866-6622

入林される皆様への注意事項

- 国有林に入林する際には、以下の事項について注意してください。
- ① 草木やキノコなどの採取、樹木の伐採や損傷をしないでください。
  - ② 自然保護などのために立入が制限されている箇所へは入らないでください。
  - ③ ゴミは持ち帰りましょう。
  - ④ 枯木や枯れ枝は危険ですので、近寄らないでください。
  - ⑤ タバコなど火の取扱いには十分注意してください。
  - ⑥ 林道は未舗装箇所が多数あります。通行の際はご注意ください

登山は自己責任です。天候や登山情報を確認し、十分な装備で入山してください。また、ご家族へ行き先を告げるとともに、登山目的地を管轄する警察署等へ登山計画書を提出してください。